

# 令和3年度 第2回校則検討委員会 兼 第1回制服検討委員会（抜粋）

2021.10.1

## 1 校則検討委員会の構成メンバー（28名）

P T A会長・副会長・健全育成部長 計 8名

生徒会本部役員 計 8名

教職員（校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・学年主任・各学年生徒指導と生徒会担当・人権・同和教育主任）計12名

## 2 協議内容

### (1) 制服のデザインや課題について

生徒：男女の制服についてインターネットで検索してきた。ネクタイやスカートをカスタマイズできるものと、男女が共通して着る制服があった。カスタマイズした制服より、男女共通の制服のほうがいいと思う。

生徒：カスタマイズとは、スカートとスラックスを選べる。他にはネクタイと蝶ネクタイを選べる。

生徒：私も男女共通のほうがいい。差が出ないようにすることに加えて、統一感があっていいと思う。

生徒：男女共通の制服に賛成。体操服は男女同じもので、デザインに違いがない。共通の制服のほうが平等で、性的マイノリティで悩む人も選択しやすいと思う。

保護者：同一の制服というのは、男女スラックスにするとスカートは選択できないのか。女子の生徒に聞きたいが、スラックスだけでもいいのか、スラックスでもスカートでもいいのか、どちらがいいの。

生徒：選択できるほうがありがたい。

生徒：男女ともスラックスにすると、男子でスカートを履きたい人がいるかもしれないので、男女でスカートとスラックスを選択できるようにしたほうがいいと思う。

生徒：冬に寒いこともあったので、スラックスを履けるほうがありがたい。

保護者：好みがあったり、冬はスラックスを履きたかったりということがあってもいいと思うので、男女共にスカートとスラックスを選べるようにしたほうがいい。

生徒：選べるようにしてしまったら、男子はスカートを選びにくくなるのではないか。

保護者：制服は女の子はスカートが可愛い、男の子はズボンが凛々しいと思う。ただ選択性にすると、今と変わらない気がする。だったら、制服は体操服でいいのではないか。男性と女性を区別するわけではないけど、スカートを履いて可愛いもいいし、スラックスでピシッとしたい。これは世間で受け入れられていると思う。今の中学生の中では制服はスカートとなっているが、固定観念にとらわれず、考えていくことが必要かもしれない。

保護者：今男の子がスカートを履きたいといったとき、いじめが起こったり、マイノリティに反発する生徒がいたりしたとき、他の生徒は説得できるの。

保護者：ある学校では私服で登校しているときと制服で登校しているときがある。体操服と制服を併用することで、性的マイノリティを持つ生徒も気持ちが落ち着く日があるかもしれない。段階的に変えていくことができるのではないか。

生徒：今の段階で制服の改正があったら、トラブルがあるかもしれない。いろんな不安もあるかもしれない。

教師：他市では、冬は制服、夏は私服ということで20年前からやっている。式典のときは制服というパターンもある。性的マイノリティへの配慮ではなく、自然とそうなったようだ。性的マイノリティの啓発を行えるようにしたい。性的マイノリティに配慮するにはデザインだけではなく、心も変わっていく必要がある。

保護者：勉強している人はLGBTについて理解があるが、していない場合はどうなるのか。この問題は小学生のうちから少しずつ勉強しなければ、何かあったらでは遅い。とにかくすごく難しい問題。どうにか小学校にも話を持っていきたい。

保護者：身近にも、悩んでいる人がいる。今の子どもたちに、制服の改定を行うことはいろんな問題があるかもしれないが、将来的なことも考えるのはいいと思う。まず、選べるという選択肢を増やしてからでもいいような気がする。少しずつ変わっていったのでいいのではないか。

教師：違いをなくすのと、違いを認めることの両方が必要に感じる。特に男子でスカートを履きたい子が悩んでいることが多い気がする。選択肢が広がったら少しでも希望を感じてくれるのではないか。

教師：制服は本当に必要なのかなと思うことがある。学校内であれば意識を改善できる部分はあるが、地域だとどこまでできるかが少し不安。デザインも含めて、選択できる幅が広がるといいのかな。

保護者：誰が何を着てもいいということが理想。ただ、結果を急ぎすぎると、光が見えたのに踏み出せない辛さがあるかもしれない。今苦しんでいる人が早く楽になれるように体操服という選択肢もあるのかもしれない。そういったことも重要視できるのではないか。

生徒：合服も欲しい。

生徒：制服が変更するという一步を踏み出せたことが嬉しい。校内で性的マイノリティの話をしているとき、あまり熱心に聞いていない生徒もいたように感じる。自分に関係ないと思っている人もいるかもしれないので、クラスで話し合った内容を生徒がまとめ切る話が必要だと感じる。その話し合った内容も今後の資料になると思う。

生徒：制服の選択はあるけど、ヘルメットの色とかシューズの色とか、小さなところから始めていくこともいいと思う。社会では男女の平等について学ぶこともある。授業の中でも触れていくことがいいのではないか。

## (2) 総括

制服は、令和5年度に改定する。土居中には改定が必要だという信念がある。子どもたちから声が出たということは人権教育の成果だ。この取組を進めることで、在校生にもこれから入学してくる生徒にとっても、安心して自分らしく生活できる土居中づくりができる。学校のHPで発信し、小学校への発信方法も考えている。保護者の皆さんは、参観日にも来て一緒に学んでほしい。今日は、積極的な意見が出て実りある会になった。今後とも、様々なご意見をいただきながら取組を進めたい。